

八千穂高原

南佐久郡佐久穂町は、町内の八千穂高原にあるシラカバの樹液を使った飲料を、「恋人のしずく」と名付けて同高原の八千穂レイク管理棟で販売している。二〇〇六年、静岡県のNPO法人が企画した「恋人の聖地」に選ばれた同高原に「若者を呼び込みたい」（町産業振興課観光係）と発案した。

町内の「八千穂村農作物等直売



シラカバ材のコースターに載せ運ばれてくる「恋人のしずく」

シラカバ樹液の飲料 「恋人のしずく」 若者誘客へ販売

所利用組合」が五百ミリ入りペットボトルで販売している「白樺樹液」を活用。グラスに注ぎ、シラカバ材のコースターに載せて提供する。一杯百二十五ミリで二百円。

管理棟で接客している橋爪博美さんによると、家族連れが興味を持って注文するが、若いカップルは少ない。「ナタデココやアロエに似ている」との感想もあつたという。八日、釣りをしに訪れ、試飲した群馬県甘楽町の自営業中島隆幸さん(47)は「ほのかに甘みがあつておいしい」と話していた。

毎年三〜四月、同組合の有志が町有林内のシラカバ約百五十本に深さ約五センチの穴を開け、ホースで樹液を採取し、町内の酒造会社がペットボトルに詰めて製品化している。年間約二千本を販売するが、同組合は「珍しさも薄れてきた」として、町の取り組みを歓迎している。